

令和元年度 第2回男女共同参画推進委員会 議事録

日時	令和元年10月31日(木) 開会：午後2時 閉会：午後3時50分
会場	蕨自治会館 2階小会議室(1)・(2)
出席	足立、岩渕、加藤、成田、池上、金丸、坂口、野中、佐藤各委員 事務局(樋口室長、鈴木主事)
資料	資料1-1 平成30年度男女共同参画関連事業報告調査 資料1-2 平成30年度DV関連事業報告調査 資料2 審議会等の女性委員の登用状況 資料3 令和元年度男女共同参画推進事業報告

1. 開会(公開・傍聴希望者なし)

2. 議題

- (1) 男女共同参画パートナーシッププラン(第2次)の進捗状況について
男女共同参画パートナーシッププラン(第2次)の進捗状況について、事務局から説明。
- (2) 審議会等の女性委員の登用状況について
審議会等の女性委員の登用状況について、事務局から説明。
- (3) 令和元年度男女共同参画事業の進捗状況について
令和元年度男女共同参画事業の進捗状況について、事務局から説明。
- (4) 性の多様性についての理解促進について
性の多様性についての理解促進について、人権啓発ビデオ「あなたが、あなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権」の視聴後、蕨市の取組状況などを事務局から説明。

【質疑応答】

- (委員) 性的マイノリティの啓発を通して、社会にはいろいろな人がいるということ
を多くの方に知っていただければ、市民の人権意識も向上すると思う。そう
すれば、生きづらさを感じている人への助けにもなると思う。
- (委員) 学校での性的マイノリティの問題は、子どもたちに性的マイノリティにつ
いての知識がないため、ひやかしの対象になってしまう。学校現場で積極的に
性的マイノリティの啓発等を行い、子どもたちの知識を深めた方がよいと思
う。
- (委員) 子どもは大きくなるにつれて、「男性らしさ」、「女性らしさ」を当たり前の
ように口にする。そのため、子どもが小さい頃から、社会にはいろいろな人
がいることを知るための教育と保護者への働きかけも必要ではないかと感

じた。

- (委員) 自治体によっては、男女の制服を選べる配慮があるそうなので、学校現場でのLGBTの啓発などが進んでいけば、悩んでいる子どもたちも少しは救われるのではないかと思います。
- (委員) 左利きと同じくらいの人が性的マイノリティだと聞いて驚いた。性的マイノリティが受け入れられる環境は、一気に変わるのではなく、家庭から順々と変わっていくのではないかと。また、自分の周りには、必ず性的マイノリティの方がいらっしゃるという前提でものを考えたほうが良いと思う。
- (委員) 各公民館で、啓発ビデオを上映するなど、気軽に市民が情報収集できるような場の提供も良いと思う。
- (委員) 年代によっては、男女共同参画、男女平等についてもまだ難しい考えを持っている人が多いと思う。自分も理解して変わっていかねばならないと思うが、なかなか理解が追いつけない方が多いのではないかと考える。
- (委員) 地域活動の中では女性が少ないのが現状。理由としては地域で女性が上に立つと風当たりが強いからであると聞いている。また、一部の保護者は、子どものしつけを家庭ではなく学校に任せているようなこともあり、そのような場合、保護者に性的マイノリティの啓発を行うことは、難しいと考える。
- (委員) 男女共同参画に性的マイノリティが入ってくるとは思わなかった。以前、同性愛者の方から、就職の相談を受けたことを思い出した。受け入れる側の会社も、当たり前のように受け入れてくれると良いと思う。

(5) その他

- (委員) 蕨市の男女平等行政推進会議を男女共同参画推進委員が見させてもらうことについて、以前要望をさせていただきましたがいかがでしょうか。
- (事務局) 直近の会議で確認したいと思います。
- (委員) 12月14日(土)に、協働事業として「男女共同参画の視点で考える防災研修」を開催しますので、ぜひご参加ください。
- (委員) 行政が、パートナーシップ条例に性的マイノリティの権利を明記することで、市民の方への啓発に役立つと考える。もし可能であれば、この委員会の中で市民の意見として意見を取りまとめることができれば素晴らしいと思う。

3. 閉会